

21・老福連 第8回職員研究交流集会 in (大阪) 分科会一覽案 <11分科会20会場>

分科会名	趣旨・課題	分散会名	座長	助言者
1 施設でその人らしい暮らしを支える	<p>今後施設の在り方そのものを変えられ、ますます重度の方が増加していくことが予測されます。くらしの場として入居者自身がお互いの関わりや暮らしをどうつづけているかの実践等をもちより重度化していく中での特養のくらしのありかたを検討しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度化、医療処置の増加、厳しい人員体制の中で工夫しながらその人らしい暮らしをさせる実践 ・重度の方のその人らしさを大切にしたい実践報告 ・体制的に創意工夫しなすめられているユニット、グループケアの実践 ・ユニット・グループケアで入居者や職員はどう変わったか ・特養における認知症高齢者に対する支援 ・身体拘束廃止のとりくみ 	<p>1-I : ユニット型を中心に</p> <p>1-II : 従来型を中心に</p>	<p>※調整中</p> <p>大阪 弥栄の郷 施設長 村瀬 愛</p> <p>北海道 フルーツ・シャトーよいち 副施設長 本荘 頼賢</p> <p>群馬 誠の園 園長 山口 千春</p>	<p>神奈川 緑陽苑 施設長 岸田 孝史</p> <p>東京 マイホーム新川 施設長 繁田 正人</p> <p>愛知 蒲郡眺海園 施設長 早川 昌宏</p> <p>白梅学園短期大学 教員 森山 千賀子</p>
2 施設の暮らしの中で食を支える	<p>重度化に伴う食形態やユニットケア体制における現場調理等、また栄養ケアマネージメントや栄養食加算の算定がはじまり施設における食の形態やあり方も複雑さをましています。利用者の立場にたった食事のあり方の実践をもちよりながら次の課題についても論議しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養ケアマネージメントの開始によって利用者への健康管理に果している役割や成果、ケアプランにおける他職種との連携 ・介護報酬の改定が食の提供に及ぼしている影響や経営的側面(直営・委託とも)からの影響 ・ひとりひとりに合わせた食の提供の工夫 	<p>2-I : 栄養サプリメントを中心に</p> <p>2-II : 他職種との連携、チーム労働</p>	<p>山形 とかみ共生苑 主任栄養士 若原 道代</p> <p>新潟 むつみ荘 管理栄養士 山崎 正則</p>	<p>京都 社会福祉法人七野会 栄養部部長 森島 静子</p> <p>鳥根 ひまわり園 施設長 常陸 実</p>
3 施設の暮らしの中で医療・健康管理を考える	<p>特養においても感染症の対応がより求められる状況になっています。又現在も重度化が進行していますが、今後特養の役割も重度者の受け入れにシフトしていく方向が考えられています。このような中で改めて次の課題について論議しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特養における健康管理のあり方、生活を支える看護の役割やあり方と介護職との連携や課題 ・重度化、少ない看護配置の中で特養の医療のあり方と医療機関との連携 ・感染症に対するとりくみ ・ターミナルケアを中心とした取り組み 等を検討しましょう。 	3	<p>富山 しらいわ苑 施設長 小西 乃里子</p>	<p>東大阪生協病院 副院長 橋田 亜由美</p>
4 ケアハウスのあり方を考える	<p>国は地域で住み続ける上で多様な住まいの構築をうたっており、ケア付き住宅、有料老人ホーム、有料賃貸住宅等様々な形態の住宅が民間の手でどんどんつくられてきています。このような動向の中で老人福祉法上に位置づけられるケアハウスの存在意義は何か、安心の住み家として今後のケアハウスをどう考えて行けばよいか、終いの施設になりえるのか、実践をもちよみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定施設問題 ・重度化への対応、ケアハウスの機能 ・医療・福祉・地域との連携の実践 ・ケアハウスの相談機能、利用者の状況からみえるケアハウスの役割 	4	<p>新潟 ケアハウス穂波の里 法人事務局長 上杉 あさ子</p>	<p>宮城 宮城野の里 施設長 小野 ともみ</p>

分科会名	趣旨・課題	分散会名	座 長	助言者
在宅生活を支える デイ・シヨート事業	<p>住みなれた地域で住み続けることの要求が強まっています。また介護予防が制度化され介護予防に対する関心も高まっています。一方国は政策的にも施設から在宅へと転換してきており、療養型の削減で今後重度の在宅者が増加することが懸念されます。制度改定から2年が経過し新しい制度に對するとりくみと共に在宅生活を支えるデイやシヨートのあり方を論議しましょう。</p> <p>(共通して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネと事業者との関わり、及び事業者間の連携 デイやシヨートを利用することで利用者や家族はどのように支えられているか、また変化したか 特色あるデイやシヨートのとりくみ デイ、シヨートを一体的に取組んでいる所の実践事例 <p>(シヨート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な利用目的に対応して本人、家族のニーズにどう応えられているか シヨートにおける個別の援助とは 事故防止の取り組み 業務の工夫改善 等 <p>(デイ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防のとりくみやその効果 個別機能訓練、口腔ケア、栄養マネージメントのとりくみ 家族との連携、家族に対する相談、援助 デイにおける各職種の役割の取り方と連携 	5-I :シヨートのとりくみを中心に	兵庫 甲寿園 副施設長 川内 光子	新潟 あしぬま荘 施設長 川瀬 裕
養護老人ホームの 制度転換への 対応と役割を 考える	<p>新制度移行後2年が経過しその具体的な影響や諸課題について大いに論議しましょう。全参加施設の発表を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新制度移行後の影響、課題、実践 自治体への問題提起等の実践 高齢者福祉を守り、孤児する視点から養護老人ホームのあり方や実践事例 	6	長野 ハートヒル川路 事務長 西田 克美	東京 信愛寮 前施設長 関 道子
地域で暮らし続ける	<p>(ホームヘルプサービス)</p> <p>ホームヘルプサービスも制度改定の大きな影響をうけました。2年が経過して改めて利用者、家族に対する影響を直視し、それをどうのりこえてきたか、また地域のヘルパーがどう連携しながら実践の交流や社会的地位の向上、地域づくりにもかかっているか、経験をもちより討議しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 制度改定の影響ととりくみ サービスの向上のとりくみ ネットワークや地域づくりのとりくみ サービスの提供責任者の役割 <p>(グループホーム)</p> <p>2008年度よりグループホームと小規模多機能型施設は地域密着型サービスと位置づけられました。グループホームは全国的に数が急増する中でその質もとわれてきています。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループホームでどこまでケアするのか グループホームと地域のかかわり グループホームならではの援助実践 等を話し合いましょう <p>(地域包括支援センター・在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所)</p> <p>制度改定から2年が経過した中で地域づくりやネットワーク作り困難事例への対応や公的責任の問題等経験をもち寄りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践の経験交流・連携の課題・地域の課題等 介護予防、ネットワークづくり、権利擁護、困難事例の対応、行政との関係等 介護保険改定の影響やそれに対するとりくみ <p>(小規模多機能)</p> <p>小規模多機能型サービスは地域でくらし続けるためのサービスとして制度化されとりくみが始まっています。</p> <p>制度としては始まったばかりであり施設をつくった経過やとりくみ、課題等を報告、検討し合いましょう。</p>	7-I :ホームヘルプサービス 7-II :グループホームケア	静岡 芳川の里 施設長 宮形 淳 山形 とかみ楽生苑 苑長 横山 雄治 東京 泉苑ケアセンター センター長 武田 愼	金沢大学 教員 森山 治 愛媛 アンジュールともの家 ホーム長 永和 淑子 福祉・介護オンプズネットワーク か 事務局長 日下部 雅喜 兵庫 きらくえん倶楽部大槻町 管理者 菊池 貴美香

分科会名	趣旨・課題	分散会名	座 長	助言者
8 安全・安心と生活リスクの共有—事故防止のとりくみを中心に—	生活施設の中でリスクとの共有は避けられません利用者・家族との信頼関係の構築、安心・安全をベースにした生活を築いていく上で事故防止のとりくみは欠かせません。介護事故を中心に、論議を深めましょう。 ・発生した事故事例から学んだこと ・ヒヤリ・ハットのとりくみ ・転倒防止の工夫 ・施設の事故防止のとりくみや体制	8	広島 くすの木苑 ※調整中	東京 みやま大樹の苑 施設長 相羽 孝昭
9 施設で事務職員が果たす役割を考える	事業の多様化、制度改定、経営のきびしさ等の中で、施設運営の実務の要としてその役割は重要さをましています。又地域との関係で組織能力も問われてきています。管理部門を対象に情報交換しながら事務の役割を論議しましょう。 ・事務部門の果たす役割 ・事務業務に係わる具体的なテーマの実践事例 ・事務業務の効率化 ・事務部門から見た介護保険制度の問題 ・施設の民主的運営の課題	9	大阪 城東老人ホーム 施設長 宮崎 佳子	兵庫 社会福祉法人きらくえん 法人事務局長 細岡 雄二
10 育ちあひ・育てあひ職場づくり	(若い職員の立場から) 福祉の現場での働きがいと生きがいについて大いに語り合います。 ・若者の率直な声のレポート ・どのような福祉に働く職員になりたいか ・研修や職場運営にのぞむもの ・学びあひ育ちあひをえる職場運営の経験 等 (中間管理職職員の立場から) きびしい情勢に立ち向かい、働きがいある職場づくりの基礎は民主的運営です。中間管理職の立場の方の悩みも率直に出し合いながら議論できるような積極的な参加を期待します。 ・リーダーシップのとり方 ・職場会議の持ち方や職場運営 ・職場の中で中間管理職が果たす役割 ・各施設の研修制度、人材育成の取組みの実践 等 ・職場におけるメンタルヘルスの課題(長く働き続けられる職場)	10-I :若い職員を中心に 10-II :中間管理職を中心に	大阪 いのこの里 施設長 山本 智光 北海道 かりが・あつべつ 施設長 石井 秀夫	金城学院大学 教員 朝倉 美江 白梅学園大学 教員 佐野 英司
11 施設と地域、利用者、家族、後援会組織等との関係を考える	施設職員以外にも開かれたオープンな分科会とし、地域にさええられた施設運営、職員との関わりを引き続き論議しましょう。そして福祉施設が地域福祉の視点として地域づくりをもとに進めていくための論議を深めましょう。後援会の立場の方、家族会の方の参加歓迎します。 ・地域に根ざした施設運営 ・後援会活動の交流、後援会活動と職員の関わり ・家族会活動の交流、家族会活動と職員の関わり ・ボランティア活動について ・苦情や意見からみた利用者、家族、地域の声と施設運営への反映 ・利用者アンケートのとりくみ ・地域の要望に応えた法人の自主的事業のとりくみ等・福祉のまちづくりの活動	11	東京 白十字ホーム 施設長 西岡 修	大妻女子大学 教員 井上 修一

※座長・助言者は、変更になる場合がありますのでご了承ください。
※会場の定員に達し次第、「第2希望」の分科会にご参加いただくことになりましたのでお申し込みは早めにお願いたします。(申込用紙参照)



分科会で発表する演題を募集しています!!

昨年の第7回職員研究交流集会は、富山県の宇奈月温泉で開催され、425名もの参加者が多くに学び、交流を深めました。

2日目におこなわれた分科会では、大きなテーマを持つ分科会が12カ所つくられました。さらに、その12カ所の分科会を各現場のテーマにあわせ、23の分散会を構成し、全国から107本もの実践報告が寄せられました。

日々、一生懸命高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践を続けられている全国のみなさん。

ぜひとも日ごろの地道な実践を大阪に持ちより、ともに学び合い、“明日からのエネルギー”に変えていきましょう！前頁の分科会一覧表をご参照のうえ、発表をご検討ください！！お待ちしております。

発表していただける方は、次ページ「演題募集のエントリー」用紙に必要事項をご記入の上、21・老福連事務局までFAXにてお送りください。この「演題募集のエントリー」は9月10日(水)が締め切りです。

なお、当日、参加者にお配りする資料集に掲載の「発表原稿」は、下記「研究・実践報告の提出について」をご参照の上、9月30日(火)までにご提出下さい。

～研究・実践報告の提出について～

21・老福連第8回職員研究交流集会の成功のため、研究・実践報告をもってご参加いただきたく、発表原稿をお待ちしております。つきましては、当日配布の資料集に掲載する原稿を下記のとおりご提出いただくようお願い申し上げます。提出いただいた原稿はそのまま資料集として印刷させていただきます。

1. 様式：下記のとおり

* 文書はワードにて作成のこと

タイトル○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(フォントサイズ12) -サブタイトル○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(フォントサイズ9) 都道府県名 所属の施設種別名 施設名 職名 氏名 (都道府県名以下フォントサイズ10.5)

(章立てをする場合は次の数字を当てる)

1	→章
1)	→節
①	→項

- 用紙サイズはA4／余白：上下・左右とも20ミリ／横書き／1行45字・1枚45行／(概ね2～4枚程度)
- <本文の文字>⇒MS明朝、フォントサイズは10.5 <タイトル>⇒は上記例示のように□□□□で囲み、文字はMSゴシック。(フォントサイズは、タイトルは12、サブタイトルを付す場合はフォントサイズ9、その他は10.5とする。)
- Wordファイル名：【[分科会No][県名][施設名][氏名]】 (例)1-2 大阪いのこ 吹田花子
- 章立てをする場合には、章に1, 2, 3の数字、節に1), 2), 3)のように片)の数字、項に①②③の囲いのある数字を用い、本文との違いを明確にするため、文字はMSゴシックとする。
- 発表方法は資料集に掲載されたレジュメ等に基づくものとする。パワーポイント等使用する場合は原稿提出時に再度連絡を。
- 発表原稿のワード文書に写真等を添付して送信される場合、ある程度容量が大きい分については別途記憶媒体に保存の上、郵送にて送付していただくようお願い致します。
- 研究交流集會に参加できない方々とも実践交流を図る主旨で、研究・実践報告(発表)された内容を情報交流誌「ほとぼら」の特集記事として取り上げることもございます。ご承知おきください。

2. 提出期限： 9月30日(日)必着

3. 提出先：Eメールにて Wordファイルを添付

◆さくら苑(担当:正森)アドレス【E-mail info@kobatokai.jp】まで！！



～ 演題募集のエントリー ～

- 「演題募集のエントリー」×切は9月10日（水）です
下記用紙に必要事項をご記入いただき、老福連事務局までFAXで
送信願います（番号 075-494-1135）！
- 「発表原稿」の提出×切は9月30日（火）です
さくら苑（担当：正森 まさもり）【E-mail info@kobatokai.jp】まで！！

施設名		施設住所	〒
施設種別		TEL	
		FAX	
発表者名		職種	
第(—) 希望分科会 (分散会番号も忘れず)	演題		
発表内容 (簡潔に)			
発表の際にパワーポイントの使用を予定していますか	している ・ していない (いずれかに○を)		
ノートPC持参 (パワーポイントソフトが入ってなくても可) ※ 現地で用意できない時はお願いすることもあります	できる ・ できない		
◇上記「PC持参」の設問で「できる」とお答えいただいた方 Windowsのバージョン パワーポイントのバージョン	※ 該当箇所にチェック願います □98 □Me □XP □VISTA □2000 □2002 □2003 □2007		

◇問い合わせ・送付先：21老福連 事務局 TEL 075-494-1115
FAX 075-494-1135